

商業

大熊町の商業については、多様化する消費者のニーズに対応した、特色ある商業の育成を図り、今後の人口増加や所得向上に伴う購買力を、できるだけ地元消費者に結びつけていくことが大切です。

このため、大野駅周辺の一体的な市街地整備を図りながら、中心部の商業拠点づくりを進め、消費者のニーズを先取りできる新しい経営感覚の下で、近代的な魅力ある商店街として、その振興を図っています。

● 商店数・従業者数・商品販売額推移

区分	昭和41年	昭和51年	昭和60年	平成6年	平成11年	
総数	商店数	122店	165	128	127	121
	従業者数	291人	488	463	574	614
	年間販売額	42,855万円	353,937	821,125	1,054,250	1,052,416
卸売業	商店数	4店	7	11	9	11
	従業者数	14人	33	53	51	67
	年間販売額	4,060万円	78,927	214,690	243,986	285,288
小売業	商店数	107店	116	117	118	110
	従業者数	252人	336	410	523	547
	年間販売額	37,639万円	250,056	606,435	810,264	767,128
飲食業	商店数	12店	42	※ 44	—	—
	従業者数	25人	119	※ 140	—	—
	年間販売額	1,156万円	24,954	※ 54,258	—	—

注…1. 平成6・11年分飲食業については未調査
2. ※は昭和61年調査
資料：商業統計調査



漁業

大熊町の漁業は、従来の捕る漁業から水産資源の保全育成という観点で、近年栽培漁業が積極的に進められ、養殖漁業の場合もより付加価値の高い業種に移行しています。

ラム養殖事業とを組み合わせた水産業の総合的な振興を図っています。

また、原子力発電所の温海水の地域還元システムを導入し、この一つとしてアワビ、ヒラメ等の種苗施設での利用が行われています。既に進められている鮭増殖事業とヒ

● 熊川漁業協同組合鮭捕獲、放流数実績

区分	捕獲数(尾)	放流数(尾)
昭和53年	2,270	944,000
昭和59年	8,012	4,430,000
平成2年	44,371	4,082,000
平成8年	7,585	6,942,000
平成12年	6,606	5,778,000



大熊町水産振興公社（ヒラメ養殖施設）

● 大熊町水産振興公社出荷数実績

区分	出荷数(t)
平成9年度	11.8
平成10年度	11.6
平成11年度	13.8
平成12年度	14.8